

学生の看護への志望動機とめざす看護師像

—看護学科第1回生入学時の調査から—

Students' Motivation to be a Nurse and Their Image of Nurses as a Career

—from Inquiry at the Entrance of the First Students of the Nursing Course—

望 月 初 音
Hatsune MOCHIZUKI

関 千 代 子
Chiyoko SEKI

富 田 幸 江
Sachie TOMITA

仙 田 志 津 代
Shizuyo SENDA

北 原 佳 代
Kayo KITAHARA

佐々木 美 樹
Miki SASAKI

要旨

つくば国際短期大学看護学科第1回生42名を対象に、看護師を志望した動機、およびめざす看護師像について明らかにすることを目的に、質問紙調査を入学時に実施した。その結果、次のことが明らかになった。

1. 看護師を志望した動機の中で多かったものは、「家族への看護師の援助に接して」15件、「病气や怪我で困っている人を助けたい」13件、「患者さんの言葉や笑顔がうれしく、励まされたから」「やりがいのある仕事と思ったから」がそれぞれ11件、「看護師から優しさや励ましを受けたから」等であり、これらは患者との関わりや看護師に接して心動かされたこと、および看護師の職業的意義による志望動機であった。

また、これらの志望動機のきっかけとなった体験は、「看護体験への参加」が45件（32.9%）と最も多く、次いで「家族の入院や通院」34件（24.8%）等であった。

2. 学生がめざす看護師像は12件のカテゴリーに分類され、そのうち「患者の痛みや気持ちがわかる看護師」「患者の不安に対応できる看護師」「患者や家族に対する気配りができ、支えられる看護師」「知識のある看護師」「信頼される看護師」の5項目で全体の約6割を占めていた。

さらに、12件のカテゴリーは看護実践力に必要な、「知識に関すること」「技術に関すること」「態度に関すること」に大別され、「技術に関すること」が59件（56.2%）と最も多く、次いで「態度に関すること」30件（28.6%）、「知識に関すること」10件（9.5%）の順であった。

キーワード：新設学科，看護学生，志望動機，看護師像

SUMMARY

Inquiry is made at the entrance, as subjects; the first 42 students of the nursing course in Tsukuba International Junior College, in order to make clear desired motivation of selecting a nurse and the nurse's image to aim at. The result is as follows;

1. The many contents motivated by experience were "in touch with aid of a nurse for their family" (15), "hoping to help the embarrassed persons with a disease or an injury" (13), "because they had felt joy of the words and smiling faces of patients, and so have been encouraged" and "thinking of a job worth to work for" (11); these were desired motivation from relationship with patients, and from having been motivated by touching a nurse and professional meaning. The experience having made the chance to select a nurse was "participation for nursing experience" 45 (32.9%), which was the most answer, and the next were "hospitalization or attending of their family" 34 (24.8%).
2. The nurse's images to aim at by students are sorted into twelve categories, and the five items among them account for about 60% in the whole; "the nurse who can understand patients' pain

and feelings”, “the nurse who can deal with patients’ uneasiness”, “the nurse who can take care of patients and their family, and can support them”, “the nurse with knowledge”, and “the nurse who can be trusted”.

Besides, the twelve categories are divided roughly into three items, being necessary for the nursing practical talent; “a category about knowledge”, “one about technique”, and “one about an attitude”. The most answer is “one about technique” 57 (56.2%) and the next are followed by “one about an attitude”, and “one about knowledge”.

KEY WORD: newly-established course, nursing student, desired motivation, nurse’s image

はじめに

本年度、つくば国際短期大学保育科および人間生活学科（食物栄養学科，人間福祉専攻），日本語コミュニケーション学科に加え，看護学科が開設された。本学における看護学科開設の目的は，少子・高齢社会への移行の中で，人々に対する質の高いケアと尊厳を求めるニーズに対応でき，地域医療現場の担い手となる心優しく，すぐれた看護師の育成をめざすことである。

これに基づいて，看護学科の教育方針は「看護師としての基本的な臨床実践能力を育てることを目標に，看護学の専門基礎分野の知識・技術の基本を習得するとともに，高い倫理観，科学的思考力，物事への深い理解力，問題解決能力および豊かな心の育成を図ること」とした。

看護学科に入学してくる学生は，入学前の個々の体験等を通して，学生なりの看護に対する考えや，理想とする看護師の姿を心に描いて入学してきていると考えられる。

松下ら¹⁾は，看護者としての職業意識の形成には，看護職を選択した動機が関係している，と報告している。入学してきた学生がどんな動機から看護師をめざし，どんな看護師になりたいと望んでいるのかを明らかにすることは，学生の準備状態を把握するとともに，自らの看護観を確立し，看護実践能力を身につけた看護師を育成していく上で重要と考える。

そこで，本学の看護学科における入学時の学生の志望動機，およびめざす看護師像を知ることにより，学生の成長過程を見つめ，その時々に必要な個別的，かつ全体的な支援をしていくことができるのではないかと考えた。

I. 研究目的

本研究の目的は，本学看護学科第1回生の看護師を選択した志望動機およびめざす看護師像について，入学時の質問紙調査から明らかにすることである。

II. 本研究における操作上の用語の定義

「青年期」：本研究ではエリクソンのライフサイクルのV階層に区分される「青年期」を，服部

氏²⁾がさらに「思春期」と「青年期」に2区分した後半の「青年期」の時期と捉え、年齢では18～22歳の時期とする。

Ⅲ. 研究方法

1. 対象

本学看護学科第1回生 42名

2. 調査方法および調査内容

入学後1ヶ月の時期に、「看護師を志した動機」と「どんな看護師をめざしたいか」の2項目について、自由記載による質問紙調査を実施した。その際、研究への協力について研究目的等を口頭で説明し、同意が得られた学生42名の記述内容を分析対象とした。

3. 分析方法

学生が記述した「看護師を志した動機」の中から、「志望動機」と「志望動機のきっかけとなった体験」について、二人一組で読みとり分類した。記録単位は、1分節（1意味1内容）からなるキーワードに着目しながら内容を読み取り、これを「志望動機のきっかけとなった体験」別に分類してコード化した。そして、意味内容の類似性に従いサブカテゴリーに分類し、さらに、その分類をカテゴリー化した。

次に、「どんな看護師をめざしたいか」についても、上記と同様の方法でコード化し、意味内容の類似性に従いサブカテゴリーに分類し、さらに、その分類をカテゴリー化した。そして、抽出されたカテゴリーを、さらに類似した内容に着目して整理し、KJ法により図式化した。

また、分析データの信頼性、妥当性を得るために、二人一組で分類した後、メンバー全員で検討し、スーパーバイザーの助言を得ながら、グループを変えて合意が得られるまで、数回にわたり分類内容の検討を行った。

4. 倫理的配慮

研究を開始する前に学生に説明して同意を得た後、学生の記述内容から個人が特定できないように匿名にし、プライバシーの保護に留意した。

Ⅳ. 結果

1. 対象者の背景

回答した学生数は42名であり、有効回収率は100%であった。対象者42名の内訳は表1に示すように、女性40名、男性2名であり、女性の平均年齢は 18.4 ± 2.1 歳（範囲は18～30歳）であり、男性の平均年齢は 18.0 ± 0 歳であった。また、女性2名は医療福祉関係に従事していた。

表1 対象者の属性

	女性	男性
人数	40名 (95.2%)	2名 (4.8%)
平均年齢	18.4±2.1歳	18.0±0歳
既卒者	3名	なし

2. 看護師を志望した動機

看護師を志望した動機について、「志望動機のきっかけとなった体験」別に記述内容をコード化した結果、総記述件数は137件であった。そして、サブカテゴリー化した結果85件に分類でき、さらにサブカテゴリーから44件のカテゴリーに分類された。その結果は表2から表7に示した通りである。

「看護体験への参加を通しての動機」は、表2に示したように45件 (32.9%)と最も多く、その内訳は、「患者さんからの言葉や笑顔がうれしく、励まされたから」「やりがいのある仕事と思ったから」がそれぞれ11件、次いで、「人々の役に立ちたいと思ったから」7件、「患者さんとの会話を通して」6件、「仕事をしている看護師の姿から」3件、「看護師の仕事に興味をもったから」2件等であった。

表2 看護体験への参加を通しての動機

サブカテゴリー	件	(%)	カテゴリー	件	(%)
患者さんから「ありがとう」といわれうれしかったから	8	(72.7)	患者さんの言葉や笑顔がうれしく、励まされたから	11	(24.4)
患者さんからの励ましから	2	(18.2)			
患者さんが笑ってくれたから	1	(9.1)			
やりがいのある仕事と思ったから	4	(36.4)	やりがいのある仕事と思ったから	11	(24.4)
患者と触れ合うことができるから	3	(27.3)			
役に立てる仕事と思ったから	2	(18.2)			
一生続けられる仕事だから	1	(9.1)			
いきがいのある仕事をしたから	1	(9.1)			
人々の役に立ちたいから	4	(57.1)	人々の役に立ちたいと思ったから	7	(15.6)
困っている人たちを助けたい	3	(42.9)			
患者さんとの会話を通して	6	(100.0)	患者さんとの会話を通して	6	(13.6)
いきいきと仕事をしている看護師の姿を通して	2	(66.7)	仕事をしている看護師の姿から	3	(6.6)
看護に細やかさを感じたから	1	(33.3)			
病気の改善のために働いてる看護の仕事に興味をもったから	1	(50.0)	看護師の仕事に興味をもったから	2	(4.4)
患者さんと看護師の姿に感動したから	1	(50.0)			
お世話が好きだから	2	(100.0)	お世話が好きだから	2	(4.4)
患者さんから勇気や希望がもらえるから	1	(100.0)	患者さんから勇気や希望がもらえるから	1	(2.2)
赤ちゃんがかわいかったから	1	(100.0)	赤ちゃんがかわいかったから	1	(2.2)
自分のために役立つから	1	(100.0)	自分のために役立つから	1	(2.2)
				合計	45 (100.0)

次いで、「家族の入院や通院による動機」であり、表3に示したように34件（24.8%）であった。その内訳は、「家族への看護師の援助に接して」15件、「病気や怪我で困っている人を助きたい」13件、「看護師の働く姿に憧れや興味を持ったから」4件、「人と接するのが好きだから」2件であった。

また、「幼い頃の入院や通院体験による動機」は、表4に示したように18件（13.1%）であり、

表3 家族の入院や通院による動機

サブカテゴリー	件	(%)	カテゴリー	件	(%)
看護師が励まし支えてくれたから	4	(26.7)	家族への看護師の援助に接して	15	(44.1)
看護師が患者や家族に優しくかったから	2	(13.3)			
看護師と触れ合ったことから	1	(6.7)			
看護師の優しい笑顔から	1	(6.7)			
看護師が優しく声をかけてくれたから	1	(6.7)			
看護師に助けられたから	1	(6.7)			
看護師が家族の不安をとってくれたから	1	(6.7)			
看護師が家族の心の支えになってくれたから	1	(6.7)			
勤務時間後にも病室へ来て話してくれたから	1	(6.7)			
看護師の手際のよい仕事ぶりから	1	(6.7)			
看護師の力によっていきいきしている父親を見たから	1	(6.7)			
病気や怪我で困っている人を助きたい	7	(53.8)	病気や怪我で困っている人を助きたい	13	(38.2)
家族の入院時、何もできなくて悔しい自分がいたから	3	(23.1)			
苦しんでいる人に勇気や希望をあげたい	2	(15.4)			
もっと病気について知りたい	1	(7.7)	看護師の働く姿に憧れや興味を持ったから	4	(11.8)
看護師の働く姿に憧れたから尊敬したから	1	(25.0)			
看護師の働く姿に憧れたから	1	(25.0)			
看護の仕事に興味を持ったから	1	(25.0)			
看護師の姿に感動したから	1	(25.0)	人と接するのが好きだから	2	(5.9)
人と接するのが好きだから	2	(100.0)			
			合計	34	(100.0)

表4 幼い頃の入院や通院体験による動機

サブカテゴリー	件	(%)	カテゴリー	件	(%)
看護師にやさしくしてもらったから	3	(30.0)	看護師から優しさや励ましを受けたことから	10	(55.6)
看護師が笑顔で迎えてくれたから	1	(10.0)			
背中をさすってくれた優しさ	1	(10.0)			
看護師の励ましから	1	(10.0)			
看護師がずっとそばにいてくれたから	1	(10.0)			
看護師が安心感を与えてくれたから	1	(10.0)			
看護師のおかげでがんばろうと思ったから	2	(40.0)			
明るくて優しい看護師の姿から仕事に興味をもったから	1	(25.0)	看護師に憧れや魅力を感じたから	4	(22.2)
看護師に憧れたから	2	(50.0)			
看護師という職業に魅力を感じたから	1	(25.0)			
元気に仕事をしている看護師の姿から	2	(100.0)	看護師の仕事をしている姿から	2	(11.1)
人々の役に立ちたいから	2	(100.0)	人々の役に立ちたいから	2	(11.1)
			合計	18	(100.0)

その内訳は、「看護師から優しさや励ましを受けたことから」10件、「看護師に憧れや魅力を感じたから」4件、「看護師の仕事をしている姿から」「人の役に立ちたいから」がそれぞれ2件であった。

「母親等が看護師であることによる動機」は、表5に示したように18件（13.1%）であり、その内訳は、「看護師に憧れや魅力を感じたから」5件、「看護に関する話を聞いて」「家族への対処場面を見て」「母のような看護師になりたい」がそれぞれ3件、「人々のために役に立ちたいから」2件等であり、「家族が医療従事者であることによる動機」では、表6に示したように5件（3.6%）であり、「困っている人々を助きたい」「母の職場の看護師のようになりたい」がそれぞれ2件であった。

「その他」の動機は、表7に示したように、少数意見ではあるが、「人の役に立つ仕事がしたい」「看護の知識、技術を学びたい」「資格を活かせる職業だから」「地域・社会に貢献したいから」等であった。

3. 学生がめざす看護師像

「学生がめざす看護師像」の学生の記述内容をコード化した結果、総記述件数は105件であり、サブカテゴリー化した結果28件に分類でき、さらに、サブカテゴリーから12件のカテゴリーに分

表5 母親等が看護師であることによる動機

サブカテゴリー	件	(%)	カテゴリー	件	(%)
看護師の仕事に憧れていたから	3	(60.0)	看護師に憧れや魅力を感じたから	5	(27.8)
どんどん魅力を感じたから	1	(20.0)			
看護師という仕事に興味を持ったから	1	(20.0)			
看護の話を聞いたから	2	(66.7)	看護に関する話を聞いて	3	(16.7)
看護のやりがいや喜びを聞いたから	1	(33.3)			
母親による家族への看護援助を見たことから	2	(66.7)	家族への対処場面を見て	3	(16.7)
母や叔母が人のために働いているから	1	(33.3)			
母のような看護師になりたい	2	(66.7)	母のような看護師になりたい	3	(16.7)
幼い頃から看護師になりたかったから	1	(33.3)			
人々の役に立ちたいから	2	(100.0)	人々の役に立ちたいから	2	(11.1)
私生活の中で役立つから	1	(100.0)	自分のために役立つから	1	(5.5)
人と関われる仕事だから	1	(100.0)	人と関われる仕事だから	1	(5.5)
				合計	18 (100.0)

表6 家族が医療従事者であることによる動機

サブカテゴリー	件	(%)	カテゴリー	件	(%)
人の命、体にたずさわる仕事につきたいから	1	(50.0)	困っている人々を助きたい	2	(40.0)
困っている人々を助きたいから	1	(50.0)			
病院での看護師の仕事を見て	1	(50.0)	母の職場の看護師のようになりたい	2	(40.0)
母の職場の看護師のようになりたい	1	(50.0)			
充実して働いている母親の姿を通して	1	(100.0)	母親の仕事をする姿を見て	1	(20.0)
				合計	5 (100.0)

表7 その他

サブカテゴリー	件 (%)	カテゴリー	件 (%)
【ボランティア体験を通して】			
人の役にたちたいから	1 (100.0)	人の役にたちたい	1 (50.0)
お年寄りと接するのが好きだから	1 (100.0)	お年寄りと接するのが好き	1 (50.0)
		小計	2 (100.0)
【ヘルパーの資格を持っていることから】			
よりよい技術を身につけたいから	1 (100.0)	よりよい技術を身につけたい	1 (33.3)
人間としての価値観がわかってくると思ったから	1 (100.0)	人間として成長したい	1 (33.3)
高齢化社会に役立つ仕事があったから	1 (100.0)	人の役に立つ仕事があった	1 (33.3)
		小計	3 (99.9)
【老人福祉施設で働いていた経験から】			
病棟に勤める機会から患者さんのお世話体験をしたことから	1 (100.0)	日常生活のお世話を通して	1 (50.0)
看護の知識、技術を学びたいから	1 (100.0)	看護の知識、技術を学びたい	1 (50.0)
		小計	2 (100.0)
【マスメディアを通して】			
医療ミスの多さに関心をもったから	1 (100.0)	医療ミスの多さに関心があった	1 (50.0)
医療ミスが減り、患者さんの笑顔を見たいから	1 (100.0)	患者さんの笑顔を見たい	1 (50.0)
		小計	2 (100.0)
【きっかけとなる出来事なし】			
資格を活かせる職業だから	1 (100.0)	資格を活かせる職業だから	1 (12.5)
自立して地域・社会に貢献したいから	1 (100.0)	地域・社会に貢献したいから	1 (12.5)
幼い頃から看護師になりたかったから	1 (100.0)	幼い頃から看護師になりたかった	1 (12.5)
患者さんに看護で癒すことができるから	1 (100.0)	患者さんを癒す看護ができるから	1 (12.5)
人を癒す看護職に魅力を感じたから	1 (50.0)	医療職や看護職に興味や魅力を感じたから	2 (25.0)
幼い頃から医療職に興味があったから	1 (50.0)		
感謝されることが好き	1 (100.0)	感謝されるのが好き	1 (12.5)
他職種になることに挫折したから	1 (100.0)	職種変更による	1 (12.5)
		合計	5 (100.0)

類された。その結果は表8に示した通りである。

12件のカテゴリーに分類された学生がめざす看護師像は、1.「患者の痛みや気持ちがわかる看護師」23件(21.9%)、2.「患者の不安に対応できる看護師」12件(11.4%)、3.「患者や家族に対する気配りができ、支えられる看護師」11件(10.5%)、4.「知識のある看護師」10件(9.5%)、5.「信頼される看護師」10件(9.5%)、6.「笑顔があり親しみやすい看護師」9件(8.6%)、7.「責任感のある看護師」8件(7.6%)、8.「技術を身につけた看護師」6件(5.7%)、9.「患者や家族とのコミュニケーションを大切にする看護師」3件(2.9%)、10.「自己研鑽を怠らない看護師」3件(2.9%)、11.「一人ひとりに合った看護を考えられる看護師」2件(1.9%)、12.「生活環境を整えられる看護師」2件(1.9%)であり、12件のカテゴリーのうち、カテゴリー1からカテゴリー5までの5項目で、カテゴリー全体の62.8%を占めていた。

次に、サブカテゴリーの内容をみると、カテゴリー1の「患者の痛みや気持ちがわかる看護師」では、「患者の気持ちを考えられる看護師」13件、「患者の心の痛みなど、気持ちに共感できる看

表8 看護学生がめざす看護師像

サブカテゴリー	件	(%)	カテゴリー	件	(%)
患者の気持ちを考えられる看護師	13	(56.5)	1. 患者の痛みや気持ちがわかる看護師	23	(21.9)
患者の心の痛みなど、気持ちに共感できる看護師	4	(17.4)			
病気や心の痛みが分かる看護師	3	(13.0)			
患者のことを第一に考えられる看護師	3	(13.0)			
不安をやわらげられるような看護師	5	(41.7)	2. 患者の不安に対応できる看護師	12	(11.4)
患者が喜びを得られるように看護できる看護師	3	(25.0)			
患者が意欲を得られるように看護できる看護師	2	(16.7)			
患者が希望を見出せるようにできる看護師	2	(16.7)			
患者および家族を支えられる看護師	5	(45.5)	3. 患者や家族に対する気配りができ、支えられる看護師	11	(10.5)
気配りができる看護師	3	(27.3)			
気づける看護師	3	(27.3)			
知識を持った看護師	4	(40.0)	4. 知識のある看護師	10	(9.5)
判断力を身につけた看護師	3	(30.0)			
知識と技術のある看護師	3	(30.0)			
患者や家族、他の医療従事者から信頼される看護師	9	(90.0)	5. 信頼される看護師	10	(9.5)
必要とされる看護師	1	(10.0)			
笑顔を忘れない看護師	5	(55.6)	6. 笑顔があり親しみやすい看護師	9	(8.6)
親しみやすい看護師	3	(33.3)			
心の優しい看護師	1	(11.0)			
責任のある看護ができる看護師	6	(75.0)	7. 責任感のある看護師	8	(7.6)
患者に迷惑をかけない看護師	2	(25.0)			
技術を身につけた看護師	6	(100.0)	8. 技術を身につけた看護師	6	(5.7)
患者や家族とのコミュニケーションを大切にする看護師	3	(100.0)	9. 患者や家族とのコミュニケーションを大切にする看護師	3	(2.9)
自己研鑽を怠らない看護師	3	(100.0)	10. 自己研鑽を怠らない看護師	3	(2.9)
一人ひとりに合った看護を考えられる看護師	2	(100.0)	11. 一人ひとりに合った看護を考えられる看護師	2	(1.9)
生活環境を整えられる看護師	2	(100.0)	12. 生活環境を整えられる看護師	2	(1.9)
将来仕事をしたい働き場所	5	(83.3)	その他	6	(5.7)
地元で貢献できる看護師	1	(16.7)			
合計	105		合計	105	(100.0)

看護師」4件、「病気や心の痛みがわかる看護師」「患者のことを第一に考えられる看護師」がそれぞれ3件の順であった。

カテゴリー2の「患者の不安に対応できる看護師」では、「不安をやわらげられるような看護師」5件、「患者が喜びを得られるように看護できる看護師」3件、「患者が意欲を得られるように看護できる看護師」「患者が希望を見出せるようにできる看護師」がそれぞれ2件であった。

カテゴリー3の「患者や家族に対する気配りができ、支えられる看護師」では、「患者および家族を支えられるような看護師」5件、「気配りができる看護師」「気づける看護師」がそれぞれ3件であった。

カテゴリー4の「知識のある看護師」では、「知識を持った看護師」4件、「判断力を身につけた看護師」「知識と技術のある看護師」がそれぞれ3件であった。

カテゴリー5の「信頼される看護師」では、「患者や家族、他の医療従事者から信頼される看護

師」9件、「必要とされる看護師」1件であり、カテゴリ6の「笑顔があり親しみやすい看護師」では、「笑顔を忘れない看護師」5件、「親しみやすい看護師」3件、「心の優しい看護師」1件であった。

カテゴリ7の「責任感のある看護師」では、「責任のある看護ができる看護師」6件、「患者に迷惑をかけない看護師」2件であった。

さらに、その他のカテゴリ8からカテゴリ12は、1サブカテゴリが1カテゴリに集約され、カテゴリ8「技術を身につけた看護師」が6件、カテゴリ9「患者や家族とのコミュニケーションを大切にする看護師」3件、カテゴリ10「自己研鑽を怠らない看護師」3件、カテゴリ11「一人ひとりに合った看護を考えられる看護師」2件、カテゴリ12「生活環境を整えられる看護師」2件であった。

さらに、12件のカテゴリは、「知識に関すること」「技術に関すること」「態度に関すること」に大別されたので、その関係を図2に示した。その内訳は、「知識に関すること」はカテゴリ4「知識のある看護師」の1項目、「技術に関すること」はカテゴリ1「患者の痛みや気持ちかわかる看護師」、カテゴリ2「患者の不安に対応できる看護師」、カテゴリ3「患者や家族に対する気配りができ、支えられる看護師」、カテゴリ8「技術を身につけた看護師」、カテゴリ9「患者や家族とのコミュニケーションを大切にする看護師」、カテゴリ11「一人ひとりに合った看護を考えられる看護師」、カテゴリ12「生活環境を整えられる看護師」の7項目、「態度に関すること」として、カテゴリ5「信頼される看護師」、カテゴリ6「笑顔があり親しみやすい看護師」、カテゴリ7「責任感のある看護師」、カテゴリ10「自己研鑽を怠らない看護師」の4項目である。学生がめざす看護師像では「技術に関すること」が59件(56.2%)と最も多く、次いで「態度に関すること」30件(28.6%)、「知識に関すること」10件(9.5%)の順であった。

V. 考察

1. 看護師を志望した動機

看護師をめざして入学してきた学生の中で、看護師を志望する上で「きっかけとなった体験」のうち、約半数の学生が1～3日の看護体験を経験していた。これは、5月12日のナイチンゲール生誕を記念して設けられた「看護の日」のイベントであり、日本看護協会を中心に全国の協力施設で実施されている。高校の進路担当教諭の紹介で学生は参加しており、「自分の目で見て、体験して、実感する」という自らの行動を通して、看護師という職業を選択してきていることが伺える。

看護師を志望した動機のうち、「看護体験への参加を通して」が最も多かったことは、学生が職業選択に際して主体的に職場体験を行い、実際に看護師の仕事を体験したことによると考えられる。その中で、学生は「患者さんからの言葉や笑顔がうれしく、励まされたから」とか「会話を

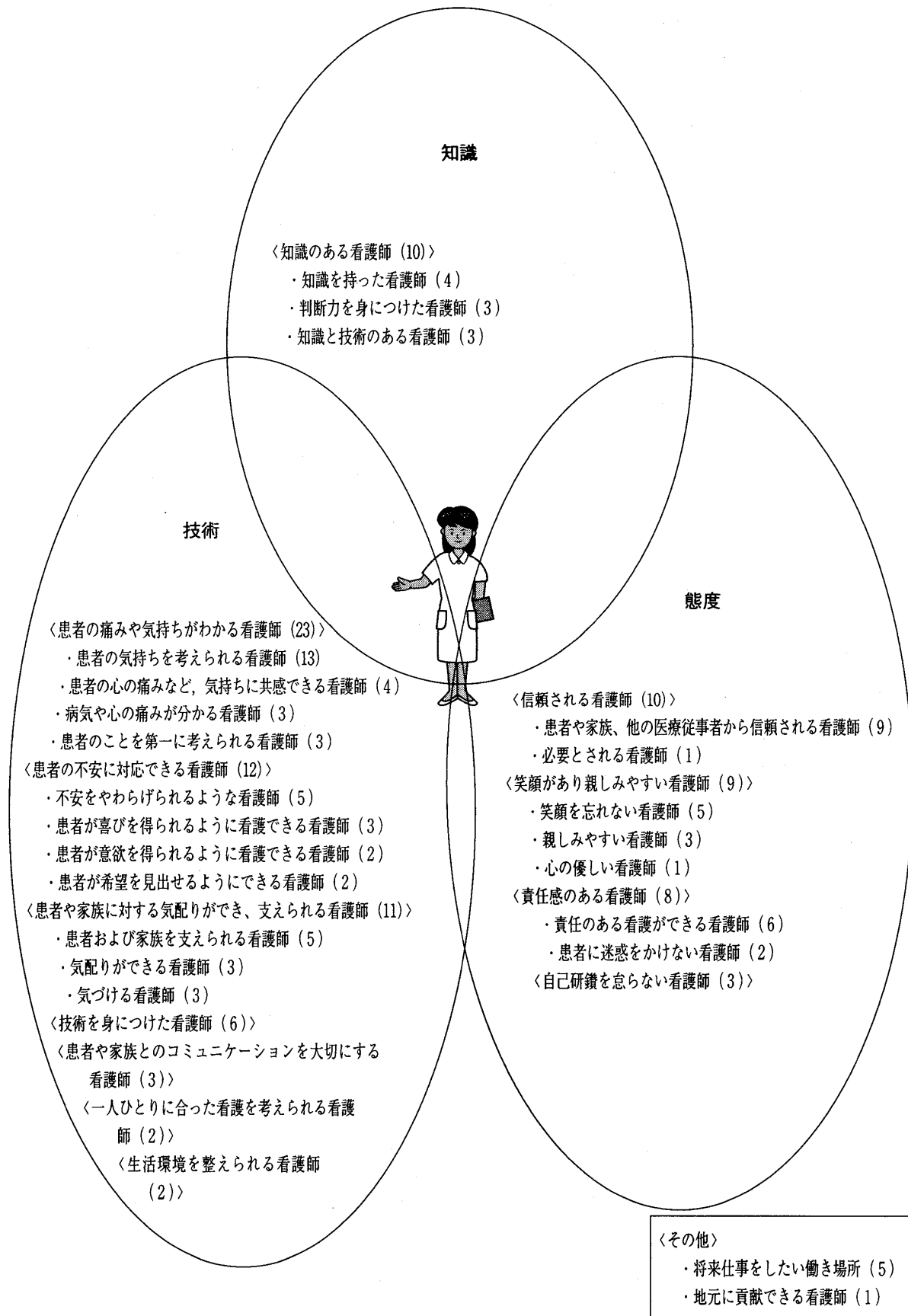


図2 看護学生がめざす看護師像

通して」など、患者との関わりを通して「うれしかった」という体験をしており、「人の役に立ちたい」という思いが生じてきている。そして、看護師の仕事に対して「やりがいのある仕事と思った」と感じている。「人の役に立ちたい」「やりがいのある仕事と思った」等の動機については、酒井ら⁹⁾の調査研究において、カテゴリー化された「看護師の職業的意義」の内容とほぼ一致していた。学生は看護体験がきっかけとなり、看護師になりたいという職業への意識が芽生えたのではないかと考えられる。

次いで多かった、「家族の入院や通院による」または「幼い頃の入院や通院体験による」動機では、学生は「家族への看護師の援助に接して」や「看護師から優しさや励ましを受けたから」など、直接看護師から受けた看護に心動かされていることが伺える。その中から、「看護師の働く姿に憧れや興味を持った」「看護師に憧れや魅力を感じたから」と記述しており、看護師の姿に将来の自分の姿を重ねて考え、職業選択に活かしていると思われる。

このように、看護師の働く姿や実際の看護場面に触れ、心動かされた体験をしていることは、先行研究³⁾⁴⁾とも一致しており、家族や本人の入院等の体験は、看護師を選択した学生の職業選択に影響を与える要因となっていることが考えられる。

また、「母親等が看護師であること」による動機では、学生は「看護師に憧れや魅力を感じたから」「家族への対処場面を見て」「母のようになりたい」と記述しており、看護師である母親等をモデルにして、看護師を選択してきていると考えられる。そして、「看護に関する話を聞いて」のように、母親等から日頃、看護師の仕事について知る機会があったことが、職業選択をする際の学生の考えに影響していると考えられる。

「母親等が看護師である」という学生は7名みられたが、今回の調査では質問紙に記載された内容から抽出しているため、紙面上に記載されていない学生の場合はカウントされていない。家族が看護師である学生が他にも数名いると思うが、石本ら⁹⁾の「看護職が身内にいる者が約半数存在する」という報告よりはやや少ないという結果であった。

「家族が医療従事者であること」による動機では、「母の職場の看護師のようになりたい」という学生がおり、家族の仕事を通して看護師に接する機会が多かったことが、志望動機に繋がっていると考えられる。

その他の動機では、福祉関係の仕事をしていた学生は、「職場には看護師の数も少なく、自分の判断で動かなければいけなくなり、介護だけではなく、看護技術を身につけたい」という動機で入学してきており、新たな目標をもってきていることが伺える。

さらに、特にきっかけはなかったが「地域・社会に貢献したいから」という学生の記述もあり、社会の為に役に立ちたいという理由から職業選択をしてきている学生もみられている。

石本ら⁹⁾によれば、学生自身の体験や身内に看護職が存在することは、学生のレディネス（学習能に対する準備状態、内的成熟）として重要であると報告されている。

今回、その他の動機として「老人福祉施設で働いた経験」をしている学生も含めて、全体では40名(95.2%)の学生が、明確な職業選択にいたる体験等をしてきたことは、学生のレディネスとして重要であることが示唆された。

2. めざす看護師像

学生がめざす看護師像は12カテゴリーに分類された。そのうち最も多かったものは、「患者の痛みや気持ちがわかる看護師」であり、「患者の不安に対応できる看護師」「患者や家族に対する気配りができ、支えられる看護師」「知識のある看護師」「信頼される看護師」の5項目で全体の約6割を占めていた。

抽出された12項目のカテゴリーは「知識に関すること」「技術に関すること」「態度に関すること」に大別された。これらは、看護学科の基本方針である「専門基礎分野の知識・技術の基本の習得」に関することや「豊かな心の育成を図る」という方針に示される内容との関連がみられている。

また、21世紀に期待される看護師像⁹⁾の中で示されている、「国民から信頼されるに足る専門的知識(サイエンス)、技能(アート)を有し、あわせて社会の変化に対応できるよう自ら研鑽に努めること」との関連もみられている。

このように、学生は入学前から看護実践力に必要な知識・技術・態度を身につけた看護師をめざしていることが推察される。

そこで、最も多かった「技術に関すること」のカテゴリーをみると、「患者の痛みや気持ちがわかる看護師」「患者の不安に対応できる看護師」「患者や家族に対する気配りができ、支えられる看護師」など、患者および家族の精神的側面への援助技術に関するものが多くみられている。

「患者の痛みや気持ちがわかる看護師」では、「患者の痛みや気持ちがわかる」、「患者の気持ちに共感できる」「患者のことを第一に考える」など、患者のことを第一に考え、相手の身になって考えようとする学生の気持ちが伺える。ナイチンゲール¹⁰⁾は看護師のあるべき姿の中で、「自分のことではなく、まず患者のことを考えること」とし、「その人の思いが今どのようなか注目し続けること」と述べているように、学生は看護師としての原点をめざしていることが伺える。

また、学生が「一人ひとりに合った看護を考えられる看護師」をあげていることは、川島¹¹⁾が21世紀に求められる看護職像の中で、「患者の個を尊重した看護はどのようにあるべきかが強く求められる」と述べていることと関連し、個を尊重した、個別性のある看護実践をめざしていると考えられる。

「患者の不安に対応できる看護師」では、学生は「患者の不安に対応でき、希望や意欲、喜びを得られるような関わりのできる看護師」をめざしていた。これらは、身体面の援助のみならず精神面の援助をも考慮した内容であり、看護の対象を全人的に捉えている内容であった。そして、患者の不安を緩和した後、希望や意欲、喜びを得られるような関わりができることをめざしてお

り、患者の闘病意欲を引き出せるような看護ができることを考えていることが伺える。

「患者や家族に対する気配りができ、支えられる看護師」では、患者から家族の方々へと対象の範囲が広がってきている。鈴木⁹は、「現代人は気配りに不慣れ」と述べており、気配りは戦後の日本においては忘れられがちな行為であるが、看護師としては大切な資質である。学生はその資質を踏まえて、患者を支えられる看護師をめざしている。

さらに、「技術を身につけた看護師」「患者や家族とのコミュニケーションを大切にする看護師」「生活環境を整えられる看護師」をめざしており、患者および家族との人間関係の手段となる技術、患者の自然治癒力を阻害しないような生活環境調整の技術等、学習が進んでいない状況の中でも、少数ではあるが具体的な技術について気づけていた。このような、学生のレディネスを大切にしていきたいと考える。

次に、多かった「態度に関するもの」では、学生は「信頼される看護師」や「責任感のある看護師」をめざしていた。しかし、信頼される看護師や責任感のある看護師とは、どうあったらよいかまでは記載されていなかった。したがって、今後の学習過程の中で、学生が行動の中に具体化できるような支援をしていくとともに、「自己研鑽を怠らない看護師」をめざしている学生の、学習意欲を高めていけるような支援をしていきたいと考える。

また、「笑顔があり親しみやすい看護師」では、学生は笑顔を忘れない、心のやさしい看護師をめざしている。木下¹⁰は看護職に求めることとして、「優しいこと、話をよく聞いてくれること、笑顔がすてきなこと」を挙げ、「心から湧き出てくる優しさでないと相手に伝わらない」と述べており、看護をしていく上で大切な資質に気づき、めざそうとしている。

「知識のある看護師」では、「知識をもった」「判断力を身につけた」、「知識と技術のある」看護師をめざしており、知識の習得に加えて、知識と技術の統合された看護師や、判断力を身につけた問題解決ができる看護師をめざしていることが伺える。

このように、本学科の学生は、「職業選択とその準備」という青年期の発達課題を達成し、明確な職業選択動機と体験に基づいためざす看護師像をもって、入学してきていることが明らかになった。

VI. 結論

本学看護学科学生の志望動機のうち多かったものは、「家族への看護師の援助に接して」「病気や怪我で困っている人を助けたい」「患者さんの言葉や笑顔がうれしく、励まされたから」「やりがいのある仕事と思ったから」「看護師から優しさや励ましを受けたから」等であり、これらは看護体験への参加や、家族および本人の入院や通院体験等がきっかけとなっていた。全体では40名(95.2%)の学生が、明確な職業選択に至る体験等をしてきたことは、学生のレディネスとして重要であることが示唆された。

また、学生がめざす看護師像は、「患者の痛みや気持ちがわかる看護師」「患者の不安に対応できる看護師」「患者や家族に対する気配りができ、支えられる看護師」「知識のある看護師」「信頼される看護師」の5項目で全体の約6割を占めており、12件のカテゴリーは看護実践力に必要な「知識に関すること」「技術に関すること」「態度に関すること」に大別された。

おわりに

今回の調査を通して、入学時における学生の看護に対する準備状態を把握するができ、今後の学生指導のための示唆が得られた。今後は、入学時の学生のめざす看護師像が、どのように変化していくのか縦断的に調査をしながら、学生の成長を見つめ、教員による学生への支援に活かしていきたいと考える。

本研究の限界は、一短期大学看護学科の調査であり、対象者数が少ないこと、また、学生の記載内容からの分析であり、一般化に限界があることにある。

最後に、本研究にご協力くださった、本学看護学科第1回生の皆様に心より感謝いたします

文献

- 1) 松下由美子, 柴田久美子: 新卒看護師の早期退職に関わる要因の検討, 山梨県立看護大学紀要, Vol. 6, 65-71, 2004
- 2) 服部祥子: 生涯人間発達論, 81-96, 医学書院, 2000
- 3) 酒井志保, 滝内隆子, 佐々木真紀子, 大島弓子: 看護学生の受験理由と看護学科選択理由に関する実態, 日本赤十字秋田短期大学紀要, 第1号, 83-90, 1996
- 4) 陣田泰子, 竹内文夫, 井澤方宏, 青木康子, 加城貴美子, 國岡照子, 芝原君江, 美田誠二, 大江基: 看護学生の職業に対する意識調査, 川崎市立看護短期大学紀要, 3(1), 11-25, 1996
- 5) 石本博江, 杉本幸江: 看護学科生の入学前の医療体験の実態と看護職業観についてのアンケート調査—教育的視点を求めて—, 新見女子短期大学紀要, 第14巻, 167-182, 1993
- 6) 井上幸子, 平山朝子, 金子道子: 看護とは(2), 254-257, 日本看護協会出版会, 1990
- 7) 湯槇ます監修: ナイチンゲールの著作集 第二巻, 121-123, 現代社
- 8) 川島みどり: 21世紀に求められる看護職像, 病院, 60巻4号, 313-315, 2001
- 9) 鈴木健二: 気配りのすすめ, 14-35, 講談社, 1982
- 10) 木下毅他: 特集—私の病院が求める看護職像, 病院, 60巻4号, 306-312, 2001